

健診施設における FIB4-index の活用と今後の有用性

◎山田 佳奈¹⁾、金井 瑞貴¹⁾、山本 桂子¹⁾、北畑 友美¹⁾、清水 美千絵¹⁾
社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷健康診断センター¹⁾

【背景】

非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)における肝線維化進展度の評価においては、FIB4-index などの非侵襲的なスコアリングシステムが有用であり、診療ガイドラインでも強く推奨されている。また、NAFLD は肥満、糖尿病、脂質異常症、高血圧を伴うことが多く、メタボリックシンドロームとも密接に関連していると言われている。

当施設では 2021 年 4 月 1 日より FIB4-index を導入し 1 年が経過したため、FIB4-index の値とその他検査結果の傾向を調査した。

【対象と方法】

2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日の 1 年間、当施設で二次健診として肝機能精密検査を受診した 1,605 名を対象とし、FIB4-index 低値群、中間値群、高値群に分類する。低値群と中間値+高値群で血液検査データ、腹部超音波検査所見を比較し、関連性について検討する。

(評価基準)

FIB4-index : 低値<1.3、中間値 1.3-2.67、高値>2.67

血液検査データ : 低値群と中間値+高値群を当施設の基準範囲 A 判定と B 判定以上に分類

腹部超音波 : 脂肪肝所見の有無

【結果】

当施設で二次健診として肝機能精密検査を受診した 1,605 名のうち FIB4-index 低値群が 1,356 名、中間値群が 218 名、高値群が 31 名であった。低値群と中間値+高値群で超音波検査の脂肪肝所見の割合を比較すると、低値群で 18%、中間値+高値群で 22%見受けられた。その他検査結果を含め、詳細について当日報告する。

【まとめ・課題】

現在は精密検査でのみ FIB4-index を導入している。今後は一次健診や人間ドックにも導入し、ほかの血液データ、超音波検査等を組み合わせて評価することで健診施設の役目である早期発見、生活習慣改善による疾患予防に繋がると考える。

連絡先 : 聖隷健康診断センター 検査課 山田 053-475-1225 内線 (7226)